



# ロシアNIS経済速報

社団法人 ロシアNIS貿易会

2008年（平成20年）9月25日号 No. 1441

## 目次

■ロシアの石油ガス分野における異変	坂口 泉 1
■トピックス	12
ロシアからタンデムプレスラインを受注	12
ロシアの港湾サービス会社が広島に拠点	13
日ロ合弁ワッコルの売上が過去最高	13
第13回北東アジアサミット開催	13

## ロシアの石油ガス分野における異変

### はじめに

最近、エネルギー大国「ロシア」の屋台骨を支える石油ガス分野に異変が生じている。その上流部門の状況が万全でないことを示す兆候が見え始めているのだ。この異変の兆しは数年間から一部の専門家により指摘されていたが、最近になりようやくロシア政府も異変の存在を認め、一定の危機感を比較的率直に示すようになってきている。それは、具体的には、「このままでは、エネルギー大国『ロシア』の屋台骨が揺らぐ可能性もある」との危機感である。

本稿では、ロシアの石油ガス分野の上流部門で生じている異変の実態、それが今後のロシアの石油およびガス生産に及ぼす影響、政府が打ち出している危機打開策等について紹介する。

### 1. 石油分野の上流部門における異変

石油分野の上流部門における異変とは、具体的には、ロシアの石油の増産余力の低下現象のことを意味する。ロシアの石油生産量は2000年から2004年にかけて毎年6～11%のテンポで増加していたが、2005年から2007年までは増産テンポが毎年2%台にまで落ち込んだ（図1）。そして、2008年に入りついに減産傾向に転じ、同年上半期の石油生産量は前年同